



学校だよりNo.37

令和2年12月4日(金)
泉崎村立泉崎中学校

白 樺

発行責任者 校長 桑原 透

泉崎中スローガン

- 1 明るく元気なあいさつ
- 2 健康・安全
- 3 「自他共栄」
- 4 「一歩改革」

目指す学校像

- 1 安全で安心して生活できる学校
- 2 生徒・教師が楽しめて「今日も来てよかったなあ」と思える学校
- 3 生徒が主体となって活動し、明るく活気のある学校
- 4 学校・保護者・地域が連携し、共に成長していく学校
- 5 保護者や地域から信頼される学校

校内スポーツ大会

3日(木)にスポーツ大会が実施されました。天候が曇りで



少し肌寒い中でしたが、みんな元気よくプレーしていました。このスポーツ大会は各学級の保健・体育教科系の生徒たちが中心となって準備から運営に関わってきました。開会式では生徒会長の駒橋くんから「楽しく優勝目指して頑張りましょう。」という話がありました。湯田くんの競技上の注意では、「ルールを守ること、けがをしないこと、楽しむこと」の3つの話がありました。選手宣誓は3年の宗形さんが行いました。

	総合	バレーボール	バドミントン	サッカー
優勝	3-2	3-2	3-2	3-2
第2位	3-1、2-2	2-2	3-1	2-2



ごみを拾う人になりましょう

朝会でこのような話をしました。
た。

「もし、廊下や教室の床に自

分が出したのではないゴミが落ちていたらどうしますか？」

ある学校に電話がありました。その内容は、道路工事をしている方からで、「工事現場に誰が捨てたかわからない袋に入ったゴミが落ちていて、その中に学校からのお便りが入っていた。」という内容です。子どもが捨てたゴミなのか、保護者が捨てたゴミなのかは分かりませんが、その学校では電話をかけてくれた方によく謝ったそうです。同時にとてもがっかりしたそうです。



本校でも以前に同じようなことがありました。本当に残念で、悲しいことです。

朝会で生徒の皆さんにこのことを話し、「ごみを拾う人にはなくても、決して捨てる人にはならぬでください。」と話しました。自分が出したゴミではなくても、廊下や教室にごみが落ちていたら拾う人になってほしいです。

特集! やってはいけない“脳の習慣” ⑭

【ゲームの長時間プレー習慣が脳の発達に影響! ?】

「アクションゲームで情報処理能力が高くなる」「パズルゲームで空間認知能力が高くなる」(いずれもアメリカの大学の研究報告)など、ある種のゲームが与える良い影響について報告されると、「ゲームをする習慣は脳にいい」と話題になりますが、**実は大多数の報告が悪影響なのです。**

ゲームが与える悪影響として、記憶力・注意力の低下や睡眠の質の悪化がよく知られています。これに加え、暴力的なゲームをする子どもは、攻撃的な感情や思考、行動を示しやすいことも繰り返し指摘されています。また、**ゲームをプレー中には、脳内に興奮性の神経伝達物質ドーパミンが放出されるため、中毒性が高く、依存症を引き起こす**といった報告をご存じの方も多いでしょう。

最近では、脳の画像分析の進歩から、ゲームが脳に与える影響についてはMRI画像を使った分析で分かるようになりました。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

ネット依存にも同じようなことが言えます

(昨年度の学校だよりNo.39の特集メディアの依存『衝動性がネット依存を強める!』より)たとえば、今すぐなら100円あげるけど、明日なら200円、1週間後なら2000円あげると言われたとき、1日も待てずに100円に飛びついてしまうような傾向を衝動性と言います。ネット依存の子供の場合、おしなべて衝動性が高く、目の前の100円に飛びつく傾向が強いことがわかっています。

